

2020年10月18日ボリビア大統領・国会議員選挙の結果

小野 瑠奈 アンヘラ

2019年10月20日大統領・国会議員選挙（以下、総選挙）後の騒擾を経験したボリビアにおいて、やり直し総選挙の早期実施は喫緊の課題であった。このミッションを担うために2019年11月12日に発出したアニェス暫定大統領率いる暫定政権は、2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延というさらなる課題に直面し、総選挙日程は3度延期され、10月18日ようやく実施された。

10月18日、投票は概ね平和裏に終了し、23日、TSE（最高選挙裁判所）による公式集計最終結果（開票率100%）が公表され、アルセ候補（MAS: 社会主義運動党、元経済・財務大臣）が55.10%（3,393,978票）獲得し、28.83%獲得したメサ候補（CC: 政党連合「市民共同体」、元大統領）と26.27%（1,775,943票）もの差をつけて圧勝した。ほか、カマチョ候補（Creemos: 政党連合「私たちは信じる」、前サンタクルス市民委員会委員長）は14.00%（862,184票）、チ候補（FPV: 勝利のための前線）は1.55%（95,245票）、ママニ候補（PAN-BOL（ボリビア国家行動党））は0.52%（31,770票）得票し、白票は91,419票（1.41%）、無効票は233,357票（3.6%）という結果であった。

ボリビアの民主主義の歴史において最も重要とされた同やり直し選挙が、いかにして実施され、選挙結果がどのように国民に受け入れられたか、そしてアルセ新政権が直面する課題を、以下紹介する。

総選挙の3度の延期

アニェス新暫定政権発足から11日後の2019年11月23日、10月20日総選挙結果が法的効力を有さないこととし、総選挙をやり直すための法案が、与野党間合意のもと上院及び下院において各々全会一致で採択された。2020年1月6日、TSEは、同法律に基づき、2020年5月3日に第一回投票を行う選挙日程を公表した。

しかし4月30日、新型コロナウイルスの状況を踏まえ国会は同日から90日以内（8月2日まで）に総選挙を延期する法案を採択した。その後、6月23日、

感染者数の増加を踏まえ、実施期限を9月6日まで延期する法律が公布された。7月に入るとさらなる感染拡大により実施期限の再延期に係る議論が発生し、7月23日、TSEは10月18日に実施延期を決定した。これに対し、8月3～15日、9月6日の総選挙実施を求めるMAS支持派市民団体が道路封鎖等の抗議活動を実施した。同状況を踏まえ、選挙日程を裏付ける法律を制定すべきとのTSE判事の意見に従い、8月13日に同法律が公布され、抗議活動が10月18日まで「停止」されることとなった。

出馬政党と立候補辞退

TSEの定める政党連合の登録申請期限である1月24日、5つの政党連合、Juntos（「フントス」）、Libertad y Democracia（Libre 21）（「自由と民主主義」）、Creemos、CC及びFPVが登録され、MAS、ADN（民主・民族主義行動党）、PAN-BOLの3党と合わせ計8つの政党及び政党連合の出馬が決定した。しかし、9月17日にアニェス暫定大統領率いる「Juntos」が、10月7日にADNが、同月11日にキログ元大統領率いる「Libertad y Democracia」が立候補辞退を表明。TSEの定める立候補辞退による代替候補擁立期限は9月3日であったことから、選挙当日の出馬政党は5党となった。投票用紙には8候補が印字されていたが、辞退した候補への投票は無効票として集計された。

総選挙の結果

ボリビア大統領選挙では、第1回投票において、第1位候補者が50%+1票を獲得、又は40%以上を獲得し、次点候補との間に10%以上の得票率の差を付けた場合、第1位候補者が選出されるが、当選要件を満たす候補がない場合、60日以内に上位2名の候補で決選投票を実施する。

この点、10月2～5日にフビレオ財団が実施した世論調査「Tu Voto Cuenta」（15,537名対象、誤差±0.79%）では、有力な3候補の得票率は、アルセ

候補 33.6%、メサ候補 26.8%、カマチヨ候補 13.9% で、無回答・未定が 9.9%、無効票 6.3%、白票 5.4% であった（有効票のみの統計では、アルセ候補は 42.9%、メサ候補は 34.2%、カマチヨ候補は 17.8%）ので、決選投票が行われる可能性があると考えられた。

当初 TSE は集計のために、投票日から 7 日以内に開票率 100% の結果が公表されその結果が法的拘束力をもつ「公式開票システム」と、各投票所で撮影された集計表の写真に基づき開票率約 97% の集計結果が短期間でわかる「DIREPRE（暫定開票システム）」の併用を予定していた。このため、DIREPRE において 1 位（MAS）が 50% 以上得票せず 2 位（CC）との差が 10% 前後となり、決選投票の必要性を公式集計結果が公表されるまで判断できない場合は、DIREPRE におけるわずかな間違いや情報到達の遅れがシステムへの疑いを招き、争いが発生する可能性が高いとの懸念があった。

しかし、投票日前夜の 17 日、TSE は DIREPRE では正確なデータを公開できないと判断し、利用中止を決定したとの声明を発出した。一時は MAS や Creemos 等が同決定を批判したが、国連、EU 及びボリビア・カトリック司教会合並びに OAS（米州機構）、カーターセンター及び UNIORE（米州選挙機関連盟）が、法的拘束力をもつ公式集計の結果を待つよう国民に呼びかける共同声明を迅速に発出したことで、緊張は緩和された。18 日、投票は概ね平和裏に、ボリビア史上 2 番目に高い 88.42% という投票率を打ち出して終了した。



集計票に集計結果を記入する監視員（2020 年 10 月 18 日、執筆者撮影）

投票終了後、当日 20 時から TSE 公式 HP で公表開始された公式集計のカウント速度が例年よりも遅

く（2019 年総選挙では 20:00 の時点で 60.77% の開票率であったが、2020 年選挙では 1% にも満たなかった。）、同時刻に公表予定であった出口調査の結果も遅延したことから一時緊張が生じたものの、日をまたいだ 19 日 0:00 頃に Ciesmori 社（アルセ候補 :52.4%、メサ候補 :31.5%）、3:00 頃にフビレオ財団（アルセ候補 :53.0%、メサ候補 :30.8%）実施の調査結果が発表された。両候補間の得票差は明らかだったので、アルセ候補の当選が確実視され、メサ候補のみならず、アニェス暫定大統領までも公式集計の結果発表を待たずに MAS の勝利を認めた。サンタクルスの都市部においては一部の反 MAS 派が TSE に対して結果の取消を求める抗議活動を展開したが、与野党双方から批判された。国際社会についても、OAS、カーターセンター、EU 等が選挙終了後早いタイミングで、選挙は不正なく実施された旨の声明を発出した。結果として、10 月 23 日に発表された公式集計結果に対する疑義は国内外何れからも呈されることはなかった。



公式集計作業を行う TSE（2020 年 10 月 18 日、TSE 公式 HP 掲載）

投票結果に関わる分析

世論調査の制度には限度があり、総選挙実施前、主な不確定要素として①「隠れた票」（Voto Oculito: 回答者が質問者を信用せず、「未定」と回答したり、実際に支持している党以外の党を支持すると答えていたりするケース）、②「戦略的投票」（Voto Útil 又は Voto Inteligente: 有権者が、自身の支持する党の候補が当選する見込みがない場合、その見込みがある候補（2 番目に支持する）に乗り換えて投票すること）、③在外投票（有権者の 4% 以上を占める）及び ④世論調査には意見が反映されていない農村部の小さな市に居住する有権者の投票傾向の 4 点があった。

今回の選挙では、上記の不確定要素がMASを勝利に導いた。実際、メサ候補（世論調査平均34%）とカマチョ候補（世論調査平均12%）の得票率は、選挙当日の得票率（メサ:26.27%、カマチョ:14.00%）と大きく変わらず、世論調査結果と大きく乖離があったのはMAS（世論調査平均43%、選挙当日:55.10%）の得票率であった。ここから、①世論調査における「態度未定層」（無回答・秘密・白票・無効票と回答したもの）の過半数がMASに投票した（「隠れた票」）こと、②カマチョ候補の支持者によるメサ候補への「戦略的投票」は行われなかったことがわかる。また、③全体票の約4%を占める在外投票においてはMASが68.95%を獲得し、④人口6万人未満の小さな市の大部分でMASが勝利した。

表1：各候補が勝利した市の数

	MAS 党	CC	Creemos
人口40万人以上の市	2市（コチャバンバ市及びエルアルト市）	1市（ラパス市）	1市（サンタクルス市）
人口40万～6万人の市	7市	5市	0市
人口6万～1万人の市	65市	5市	11市
人口1万～2千人の市	164市	5市	7市
人口2千人以下の市	62市	2市	4市

出所：TSE（最高選挙裁判所）の選挙関係公式集計のHP
<https://computo.oep.org.bo/> から抽出して在ボリビア大使館作成

アルセ新政権の課題

11月8日に発足したアルセ新政権の直近の課題は、2020年GDP成長率予測値が-8.4%（出所：ボリビア中央銀行レポート）とされているボリビア経済の回復と2021年上四半期に到来する可能性が高いパンデミック第二波への対処である。

また、MASは労働組合、農民、鉱山労働者、運転手連盟ほか、様々な社会的団体によって構成されているので、各セクターの長期的・短期的目的に基づく要求をバランスよく受け入れなければならない、それに応えられない場合はMAS内部で対立が生じる可能性も十分にある。さらに、マジョリティ（MAS派）のためだけではなく国民全体のための政治を行い、2019年総選挙後に生じた社会の分断を解消させ和平に向かわせていくことも、アルセ政権の重要な任務である。同様に、国会ではMASが過半数の議席を占めるものの、モラレス政権とは異なり3分の

2の議席は有していないので、重要な法案を可決させるにあたっては野党（CC及びCreemos）と協力・協調することが不可欠である。

表2：上院及び下院議会における各党の議席の分布

	MAS	CC	Creemos
上院（計36議席）	21議席（58%）	11議席（31%）	4議席（11%）
下院（計130議席）	75議席（58%）	39議席（30%）	16議席（12%）

出所：表1と同じ

アルセ政権発足から1か月が経った12月現在、アルセ大統領は自身の公約のとおり、モラレス政権時から一新した閣僚とともに堅実な政策を実践しているが、新たな大統領の下で再スタートを踏み出したMASがガバナビリティを確立できるか否かは、長期的目線で評価していく必要がある。

（本稿は個人の見解に基づき執筆したものであり、日本政府や外務省の見解を示すものではない。）



就任式後のアルセ大統領とチョケワンカ副大統領（11月8日、アルセ大統領ツイッター掲載）

（おの るなあんへら 在ボリビア日本国大使館三等書記官
 （政務班長）